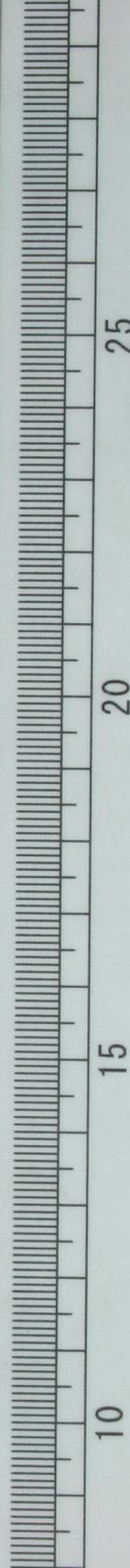




Handwritten text on a dark, textured strip, possibly a title or author's name, written in a cursive style.

本  
錄  
卷  
之  
一  
電  
氣  
學

Handwritten text on a dark, textured strip, likely a subtitle or a specific chapter title, written in a cursive style.



10

15

20

25



A432

篠田仙果撰  
永為子孫之寶

繪本 鹿兒島戰記

東京 青成堂發行

緒言

春あらしと未だ去らぬ寒氣は、是迄鐵砲汁も好ましく、  
空然とせし眠氣覺しに、急須小入る茶の受も、  
鉄砲玉の時代の菓子。鉄砲垣に鎗梅は、  
蒼びの雨窓と、青盛堂の主人が音信。鹿兒島  
戦記を録ふとを、色。ハイと承諾ても筆もこの  
ろくぬ。未だ出来ぬと矢の使ひ。無鉄砲り  
記したる。當ふといふと祝まらん

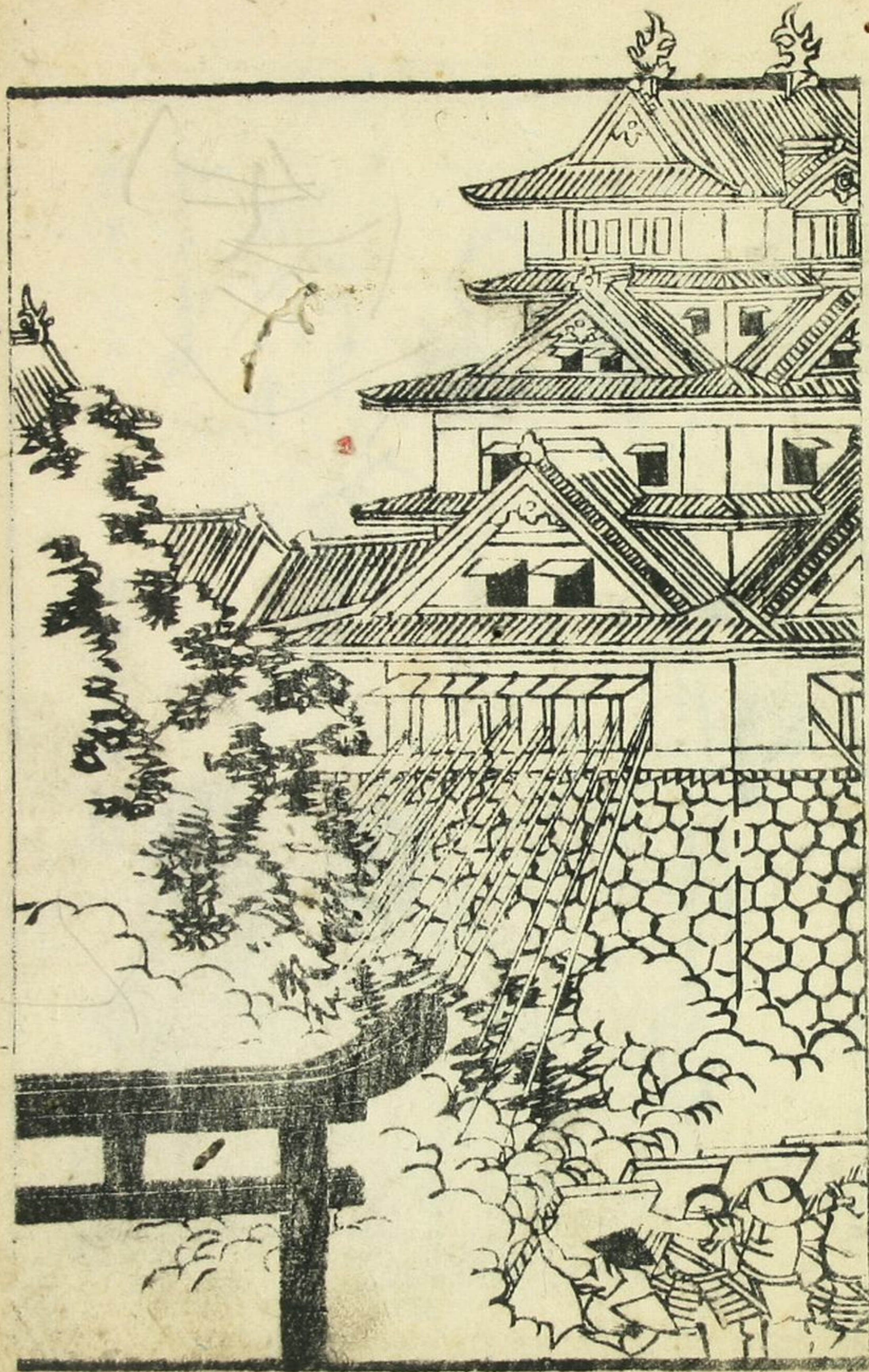
明治十年二月下院 篠田仙果



98-7865



東山



鹿嶋乃  
 暴徒等  
 水城之  
 臺之  
 戦以

鹿嶋





夢史あり

悼の極

本村和希

木村和希

田村啓三郎



内田正風

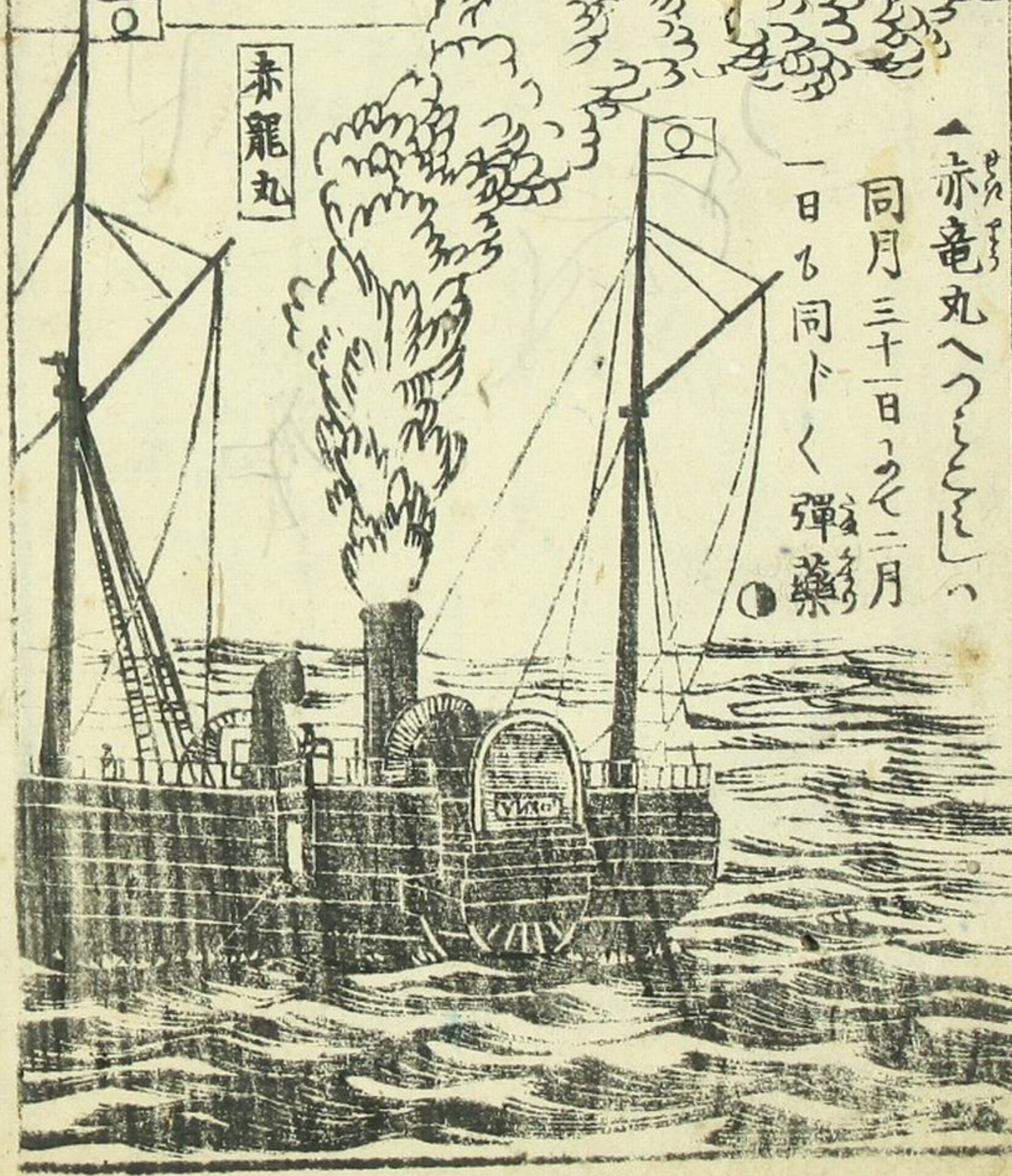
繪本島嶼見聞初編

東京 篠田仙果記

近世五大洲中の英名とて知らるる世に仙國の拿破崙がはじめアジヤに島嶼の  
 書生より出ると電鑑として塾生ら粗暴なる行ひせし者これまでも  
 江湖上小兒閥世と屢あり茲小前陸軍大將兼参議西郷隆盛氏  
 維新の功と奏し明治六年職を辞せし小賞として二千石ありけり  
 西々氏とれども辞せし小朝廷許しめられ恩賜二千石の金とて  
 鹿児島縣下の私学校と設置せしるが同族士族の青年輩へは  
 是も生徒ありるるが文を捨ひしるるも武道の修行せり時小  
 治十年一月下旬右私学校生徒ら暴拳のりりとも夙りありし  
 士族生徒らへはさくより容易あらざる所の密謀と企むより確証も  
 有之は政府より注意せしめられ本年一月廿七日大坂鎮臺の命とらけ  
 陸軍の士官数名三ツ菱の郵便汽船赤龍丸小あり組まれ大坂を



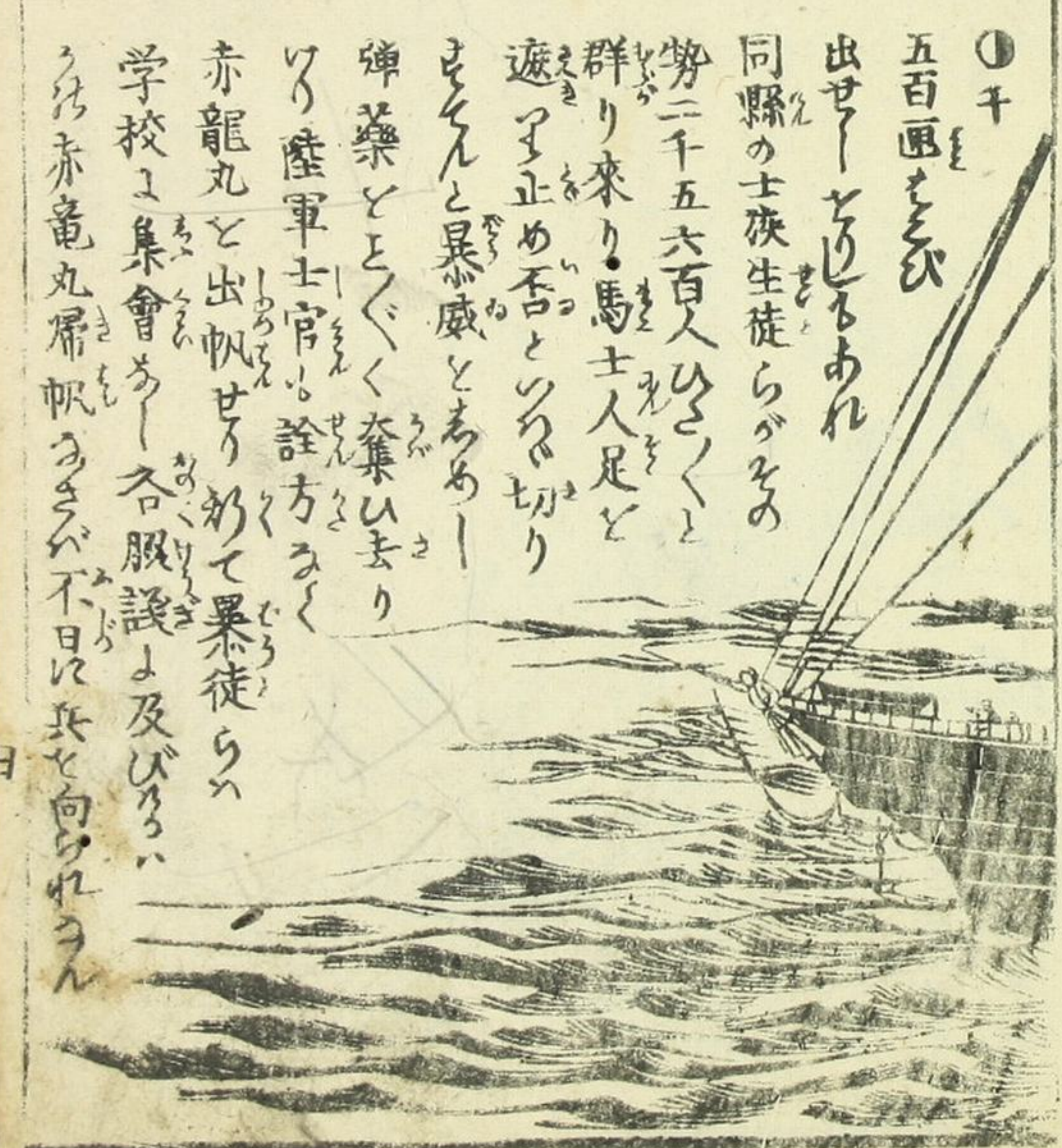
出帆  
 隅の沖  
 より佐田の  
 岬を右へ  
 とう世小  
 薩ア富  
 上とつ海門  
 岳の麓海門  
 ロより十三里  
 入りて鹿兒島  
 港に着せし  
 る濟つま



赤龍丸へつとくし  
 同月三十日一二月  
 一日も同トく弾薬

赤龍丸

ある磯町の  
 龍の上とつる  
 地のある陸軍  
 省造船所  
 畜へあり  
 弾薬二千  
 匣と馬小付  
 又ハ人赤  
 負せる



○千  
 五百匣を以  
 出せしとつらあれ  
 同縣の士族生徒らつその  
 勢二千五六百人ひとく  
 群り來り馬士人足と  
 遮つし止め否とつる切り  
 まんんと異威とあり  
 弾薬ととくく棄ひ去り  
 の陸軍士官の詮方なく  
 赤龍丸と出帆せり初て果徒ら  
 学校と集會あり各服議よ及びるハ  
 るは赤龍丸帰帆するハ不日兵を向られらん

富士



廣島



左あふ此方ハ  
十分のその  
手當のす  
艦を  
攻めせるとも  
港内一臺  
場ありま  
祇園洲の  
暗礁あり  
先年  
英國  
軍艦

阿久根より長寄へ  
出る及の平坦な  
れどこれす  
及時快れば



彼の洞よのりうけ船底の  
敗をそろうとあれむ  
たやうく船の  
かぐ且大陽の按島と  
薩州の瀬戸乃  
間日ぐう二丁有  
余たれ此所  
あても食止む  
又陸つれんり  
色の道も  
嶮咀る  
九十九打  
ゆぐ

車馬の通行思ふもよ  
鎮臺兵も忍ぶにさ  
菜と畜ふ先今宵磯町  
陸軍省造船所と  
砲兵属  
同ドク  
廠へ  
よや  
寺表の玉  
銃二万挺

廣島



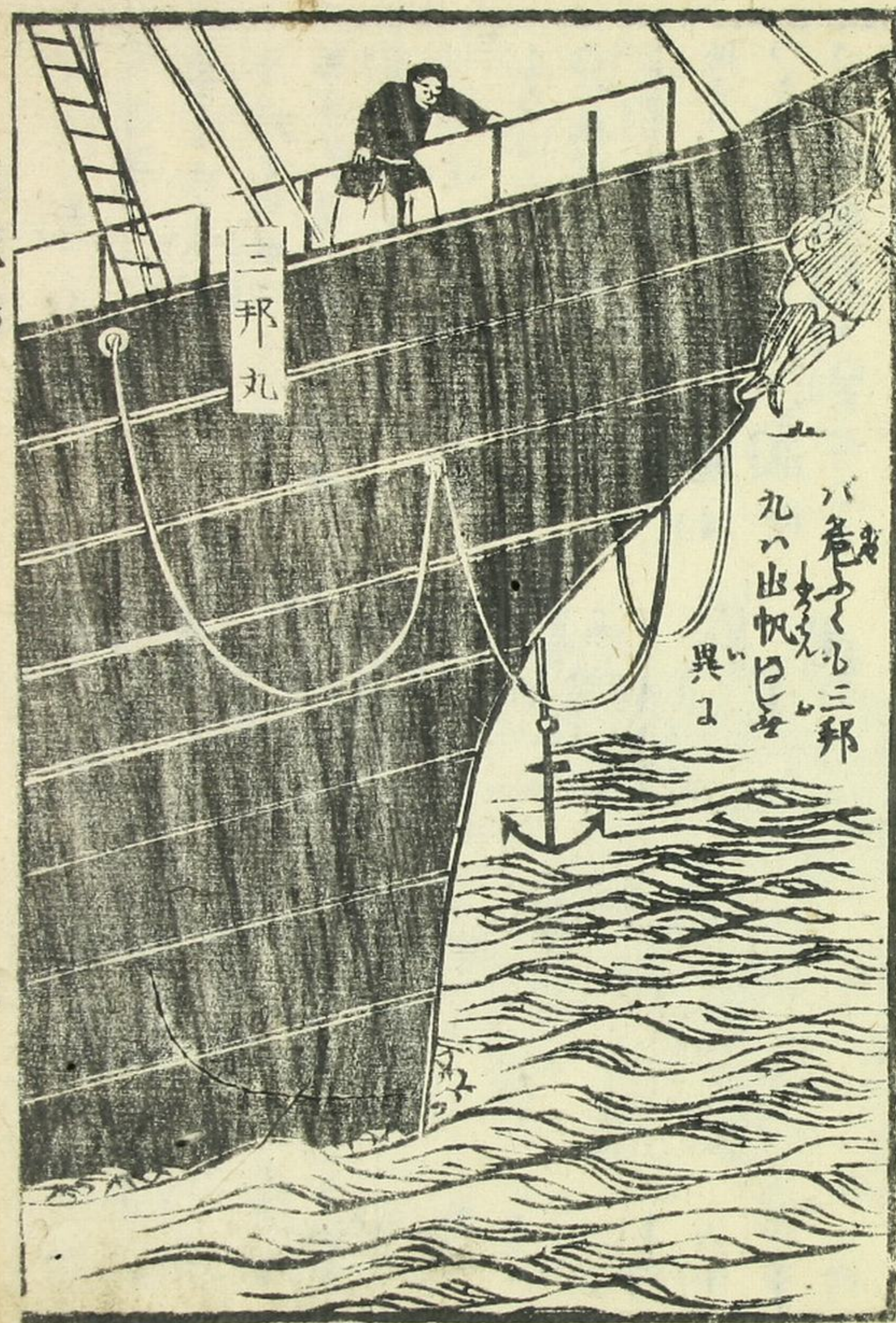


物ありと伺われれば右品とて買とる  
 産し七滝の上名の製  
 造所を設けしる弾薬  
 器械は日々三十餘  
 出来ませむ  
 夫れも不足とても通國の  
 士族へ依頼の速送もあはせむ  
 各々支度の上されしる二箇  
 かつこれ押出し下も  
 弾薬製造所下も  
 砲兵属廠の計入  
 工部省銃スナイトル



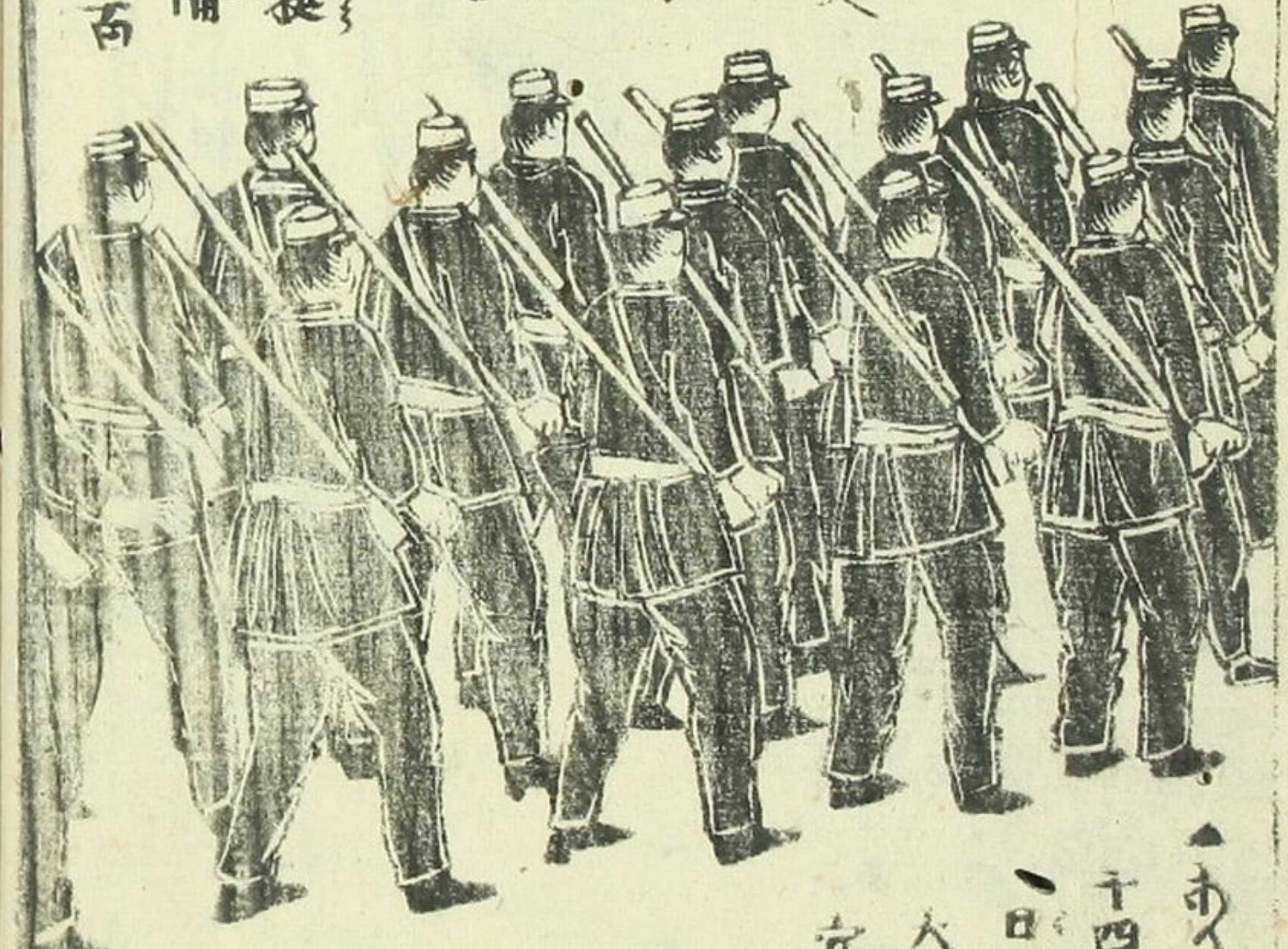
銃多しひの弾薬若干と  
 うむいこのもたあしと  
 引あがしる翌日暴徒長崎へ  
 けり弾薬十斤買とる  
 元は銃二万挺を賣りの  
 あししと買つんとせしむ  
 さぬ最も怪しむるが奪回の  
 末見頭され救名捕  
 縛りつたる  
 叔も生徒かその  
 勢ひますくさるる  
 るりたれが更の顛末出府の  
 上委細上申しつと







神戸へ着くニツ菱の  
同所よりニツ菱の  
東京丸乗るべくも  
神戸へ出帆し二月  
九日午後二時ごろ横濱へ  
着されたり  
○暴徒の事件を各所  
より日々の電報救千通  
ゆへ鹿兒島縣下の近傍を  
非常監護の爲とす  
巡查六百名スナイドル銃一挺  
づ警部へヒストルを準備  
つされ 緞買少警視二百



十四日  
山下部  
大書記  
官幹吏  
河野  
政録  
あり  
ひに  
土州  
の旧  
知事  
山内

人々率ひ長崎へ神足一等  
大警部二百人と率ひ熊  
本へ川畑大警部八百人と  
率ひ佐賀表へ重信權少  
警視二百人と率ひ福  
岡へ出張し外小百五十人  
増加られ品川内務大書記官  
石川中警視の諸君も  
三ツ菱の金川丸へのり  
組と二月十一日よと濱へ出帆され  
十三日大久保内務中島議官柳原  
議官鳥尾陸軍中將大山陸軍少將  
ハ玄武丸に乗船ありて西京へ出發





熊本曰知事細川  
 君の家従と共に出發  
 され後藤板垣大江ホの  
 三君も東京丸へ同船せり  
 この方より曰藩士らが暴  
 徒は組よりいもちりうらと  
 鎮靜のこめありとぞ  
 十五日の通備兵隊鎮臺豫備  
 兵一大隊づつ十六日ハ歩兵一大隊  
 騎兵一分隊より出されよと  
 ちしめ何地の港もよる嚴重  
 取えまうと附られり  
 繪本廢兒島戦記初編上巻終



010190510366



吉田愛三